

校長室の小窓から・・・

—No.21— 令和8年2月6日(金) 金光八尾中学校高等学校 校長 松井 祥一

決断はスタート地点

寒い日が続き、空気が乾燥しており、インフルエンザが猛威を振るっています。受験生諸君は感染対策を怠らず、実力を十分発揮してほしいと願っています。

1月24日、古都奈良の早春を告げる伝統行事、若草山山焼きを見てきました。約600発の花火が打ち上げられ、山肌を炎が包み夜空を焦がす様子は実に圧巻でした。2月3日の節分には老夫婦で恵方巻をかじり、無病息災を祈りました。こうして無事立春を迎えることができました。季節を感じながら時を綴ると、ありきたりな日々もかけがえない時間に感じるすることができます。

いよいよミラノコルティナオリンピックが開幕します。スピードスケートの高木美帆選手がインタビューでこんなことを言っていました。「これまでのオリンピックは万全の体制で臨んできたが、今回はそうではない。筋力アップしたパワーが思うように氷に伝わらない。暗闇に迷い込んだ気分だ。そこでオリンピック出場種目ではないが、パワーだけでは戦えない3000mに出場し、力の抜き方が見えた。少し光がさしてきた。」

力技や熱意、根性だけでは通用しないことがあります。「気合だっ！ 気合いだっ！」と連呼する元女子レスリング浜口京子さんの父親、アニマル浜口さんですが、1日5分、心を整理する時間を作っていると言います。壁に点を書いた紙を貼って、その点をじっと見る、そして好きな言葉を唱えるのだそうです。また、浜口さんは読書が好きで、言葉の力からも元気を貰えるとおっしゃいました。

高木選手もアニマル浜口さんも、実に哲学的です。哲学的思考とは物事の本質を見極め、適切な判断を下すことです。そのためには、様々な情報や意見に耳を傾け、様々な角度から考える習慣を身につける必要があります。新しい自分を見つけ、最後は自分の責任で判断を下さなければなりません。それが「決断」というものです。

前号では「本質を見抜く」と題して書きました。今回は、いよいよ「決断」の時です。卒業を間近に控えている皆さんは、次の進路に向けて大きな決断をしたことでしょうか。考え抜いた決断は「正しい答え」でも「間違った答え」でもなく、新たに踏み出した先で、どう生きるかです。皆さんはゴールではなく、スタート地点に立ったのです。

